

有毒魚

ハンドブック



札幌市

— はじめに —

このハンドブックは、札幌市中央卸売市場に入荷事例があり、また、国内において食中毒が発生している魚種を中心に、鑑別ポイントを解説したものです。

有毒魚の入荷時に、「この魚は産地で食べられているから大丈夫である」との話を聞くことがあります。産地では、漁獲海域、季節、魚体の大きさなどの経験則に基づき「食べられる」と判断している場合もあるようです。しかし、実際には、産地でもこれらの魚を原因とした食中毒が発生しています。

大消費地である札幌市の市場には、全国から多種多様な魚が入荷しています。それらの中には、有毒な個体が入荷する可能性もあります。このため、札幌市では、食中毒防止の観点から、このハンドブックで紹介している魚種を「有毒魚」と位置付けて、販売自粛などを求めています。

今回の改訂にあたり、新たに入荷事例を追加したほか、見やすい索引を加え、事業者の方々には、更に使いやすくなりました。また、一般の方々にも、市場における取組について知っていただきたいと考え、イラストで具体例を示しながらわかりやすく解説しています。

ぜひ、多くの市民の皆さまに、手に取って見ていただきたいと思っています。

— 目 次 —

① 厚生省通知により食用禁止の魚



オニカマス/ドクカマス ……8



イシナギ/オオクチイシナギ 10



バラムツ …………… 12



アブラソコムツ …………… 13

② 厚生省通知により販売を自粛する魚



アオブダイ …………… 14



ゴマシズ …………… 16



ホシゴマシズ …………… 16

3 札幌市中央卸売市場で食不適魚として扱う魚



ナガツカ/ワラツカ …… 17



タウエガジ …… 17

4 札幌市中央卸売市場で販売を自粛する魚

1 シガテラ毒 6頁で解説



ドクウツボ …… 18



バラフエダイ …… 19



イッテンフエダイ …… 20



イトヒキフエダイ …… 22



ヒメフエダイ …… 23



アオチビキ …… 24



ゴマフエダイ 25



ムネアカクチビ 26



バラハタ 27



マダラハタ 28



アカマダラハタ 30



オオアオノメアラ 31



カスミアジ 32



ギンガメアジ 34



サザナミハギ 35



テングハギ 36

2 パリトキシシン毒 **6** 頁で解説



ソウシハギ 37

5

札幌市中央卸売市場にて販売可能であるが、
販売者に注意喚起を要請する魚



アブラボウス 38

6

フグについて：入荷実績が多い等、主なものを掲載



トラフグ 40



マフグ 40



交雑種(トラフグ×マフグ) 41



カラス 41



シマフグ 42



ヒガンフグ 42



ショウサイフグ 43



ゴマフグ 43



ナシフグ 44



クサフグ 44



コモンフグ 45



コモンダマシ 45



カナフグ 46



シロサバフグ 46



ドクサバフグ 47



ホシフグ 48

1 シガテラ毒

サンゴ礁域に生息する渦鞭毛藻というプランクトンが毒の起源と言われ、食物連鎖により魚が毒化する。世界中で毎年2万人以上が中毒している。症状は、頭痛、関節痛、下痢、倦怠感、麻痺、ドライアイスセンサーションなど。回復に数ヶ月かかることもあるが、死亡率は低い。

わが国では、南西諸島が主なシガテラ毒魚の生息海域であるが、千葉県でヒラマサ、イシガキダイにより、静岡県でカンパチにより、シガテラ中毒が発生している。現在、400種以上がシガテラ毒魚と言われている。同じ魚種でも毒性の個体差、地域差が著しい。食べると必ず中毒するわけではない。

2 パリトキシン毒

スナギンチャク類や魚類、一部のカニ類など、海産生物に広く分布する。毒成分は渦鞭毛藻類の一種により生成され、食物連鎖により生物が毒化すると考えられている。症状は、筋肉痛、舌や全身のしびれ、呼吸困難等で、重症の場合には死に至ることもある。

— このハンドブックの使い方 —

1.和名表示の凡例

フグ以外

赤:販売禁止又は販売自粛

紫:販売者に注意喚起

※**困いなし**:類似の食用魚

フグ

赤:食用不可

紫:海域又は処理方法を限定して食用可

青:食用可

2.札幌市中央卸売市場に入荷があった有毒魚

以下の例のとおり、「札幌入荷」マークにて示す。

例

オニカマス／ドクカマス〔カマス科〕

札幌
入荷



①

札幌
入荷

オニカマス／ドクカマス〔カマス科〕



鑑別のポイント

- ① 尾鰭後縁中央部が2箇所突き出ている
- ② 尾鰭、第2背鰭、尻鰭の先端(→)が白い
- ③ 体側上半部に不明瞭な黒色横帯

学名 *Sphyraena barracuda*

英名 Great barracuda

体長 最大1.5m

分布 南日本、東部太平洋をのぞく全世界の熱帯海域

毒性 シガテラ毒。詳細については、6頁参照。

取扱い 1953年(昭和28年)に厚生省通知(衛環発第20号)で販売禁止。

その他 諸外国では、単にBarracudaと呼ばれる。オオカマスに似ている。

1976年(昭和51年)9月9日札幌市中央卸売市場に入荷～廃棄。

— 類似の食用魚 —

オオカマス



体長 90cm

分布 琉球列島～インド・西太平洋

横帯が似ているが、尾鰭の形が違う。

イシナギ／オオクチイシナギ〔スズキ科〕

肝臓を除去したものは販売可

札幌
入荷

小型魚



大型魚②

鑑別のポイント

共通項目▷前鰓蓋骨(→)に鋸歯(細かいギザギザ)

小型魚▷① 5本の白色縦線

② 尾鰭外縁部(→)が黄色

大型魚▷① 体表に白色縦線の名残がある

② 尾鰭後縁は截形(せつけい)

③ 腹鰭は胸鰭基部の真下から始まる

学名 *Stereolepis doederleini*

英名 Japanese giant seabass

全長 2m

分布 北海道から高知および石川県までの沿岸

毒性 肝臓にビタミンAを過剰含有。症状は、頭痛、嘔吐、発熱、皮膚剥離等

取扱い 1960年(昭和35年)厚生省通知(公環発第25号)で販売禁止。ただし、肝臓を除去したものは販売可。

その他 札幌市中央卸売市場への入荷頻度は高い。
イシナギだけでなく、サメ、マグロ、ブリ、カンパチ等の大型魚の肝臓はビタミンAを過剰含有しており、中毒を起こすことがあるので食べないこと。

— 類似の食用魚 —

小型魚は、ソイ類、特にシマソイに似る。
大型魚はニュージーランドオオハタに似る。

シマソイ



体長 30cm

分布 岩手県～北海道、
朝鮮半島

シマソイの縞は黄色。
尾は円形。
イシナギの縞は白色。

ニュージーランドオオハタ

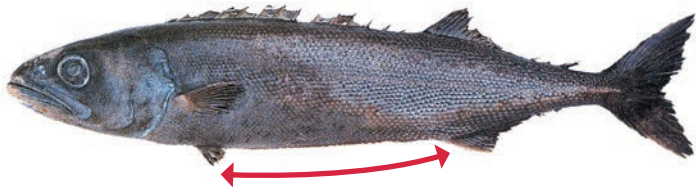


体長 60cm

分布 ニュージーランド、チリ、パタゴニア

上部がこげ茶色、下部が茶色のツートンカラー。
尾は截形。

バラムツ [クロタチカマス科]



鑑別のポイント

- ① 棘状の鱗
- ② 腹面の骨質隆起縁 (↔)
- ③ 深海魚特有の目 (キンメダイに似る)

学名 *Ruvettus pretiosus*

英名 Castor oilfish

全長 2m

分布 南日本太平洋側、温帯・熱帯海域

毒性 ワックスによる下痢

取扱い 1970年(昭和45年)厚生省通知(環乳第83号)で販売禁止。

アブラソコムツ〔クロタチカマス科〕

札幌
入荷



鑑別のポイント

- ① 尾部(→)に大きな隆起縁
- ② 側線が著しく波打つ(右図参照)



学名 *Lepidocybium flavobrunneum*

英名 Escolar

全長 1.5m

分布 南日本太平洋側、全世界の温帯・熱帯海域

毒性 ワックスによる下痢

取扱い 1981年(昭和56年)厚生省通知(環乳第1号)で販売禁止。

その他 鱗は、有孔管状鱗(鱗に穴があいている)と呼ばれるが、見てもよく分からない。表面にワックスが染み出しており、触ると、手が水をはじくようになる。2001年(平成13年)10月18日、2018年(平成30年)9月4日札幌市中央卸売市場に入荷～販売禁止。廃棄。

アオブダイ〔ブダイ科〕

別名：イラブチャー（オオバチャー）

札幌
入荷

鑑別のポイント

- ① 背鰭、尻鰭、尾鰭の辺縁部が濃青色
- ② 尾鰭は截形（せつけい）又は円形
※上記写真は尾鰭が截形の個体
- ③ 歯は結合して鳥のくちばし状

学名 *Scarus ovifrons*

英名 Blue humphead parrotfish

体長 65cm

分布 東京～琉球列島

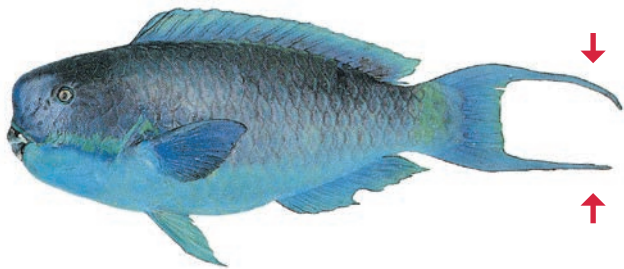
毒性 パリトキシン様毒等。筋肉も有毒。症状は筋肉痛、舌や全身のしびれ、呼吸困難等。死亡する場合がある。

取扱い 1997年（平成9年）厚生省通知（衛乳第281号）で販売自粛。

その他 長崎県、三重県等で死亡例あり。
老成魚は額にコブがあるが、若魚にはない。ナン
ヨウブダイが似ている。
2002年(平成14年)4月13日札幌市中央卸売市場に
入荷(愛媛県産)～廃棄。

— 類似の食用魚 —

ナンヨウブダイ 別名:オオバチャー



体長 55cm

分布 琉球列島～ハワイ諸島を除く
インド・西部太平洋

尾鰭の両端(→)が長く伸びる。

ゴマシズ〔マナガツオ科〕



学名 *Stromateus brasiliensis*

体長 40cm

分布 南アメリカ
大西洋岸

ホシゴマシズ〔マナガツオ科〕



学名 *Stromateus stellatus*

体長 25cm

分布 南アメリカ
太平洋岸

共通鑑別のポイント

- ①形はイボダイに似るが、腹鰭がない
- ②体上半部に斑点が散在
- ③尾鰭2叉形(→)

毒性 油脂による下痢

取扱い 1999年(平成11年)厚生省通知(衛乳第240号)で販売自粛。

その他 「シズ」はイボダイの地方名。

札幌市中央卸売市場で 食不適魚として扱う魚

ナガヅカ／ワラヅカ〔タウエガジ科〕

別名：ホンワラ

タウエガジを含む



札幌
入荷

鑑別のポイント

- ① 頭部扁平。目は上(→)につく
- ② 下顎は上顎より前に突出
- ③ 上顎後端(→)は目の後縁を超える

学名 *Stichaeus grigorjewi*

英名 Japanese prickleback

体長 60 cm

分布 北日本～日本海北部、オホーツク海

毒性 卵巣のディノグネリンによる腹痛、嘔吐、下痢等

取扱い 卸売場の指定の場所に他の魚種とは区分して置き、魚肉練製品の原料として特定された業者に販売する。卵巣を除去したフィレは販売可。

その他 近縁種「タウエガジ」も卵巣が有毒。ナガヅカ、タウエガジは本市市場に時々入荷している。

タウエガジ

体長 約40cm



背鰭に暗色
斜走帯がある。

札幌市中央卸売市場で 販売を自粛する魚

1 シガテラ毒

ドクウツボ [ウツボ科]



鑑別のポイント

- ① 鰓穴(→)の部分が黒い
- ② 不規則な黒斑があるが、成長とともに薄れる

学名 *Gymnothorax javanicus*

英名 Giant moray

全長 1.8m

分布 琉球列島、インド洋、太平洋域

毒性 シガテラ毒

取扱い 販売自粛

その他 代表的なシガテラ毒魚。ゴマウツボ、ハナビラウツボ、ナミウツボも有毒。大型ウツボ類は、競りにかける前にしっかり鑑定した方が良い。

バラフェダイ〔フェダイ科〕 別名/アカナー



鑑別のポイント

- ①目の前部(→)に溝があり、その中に前・後鼻孔がある
- ②上顎に犬歯
- ③各鰭は黒っぽい

学名 *Lutjanus bohar*

英名 Large red mumea

体長 1m

分布 南日本～インド洋、西太平洋域

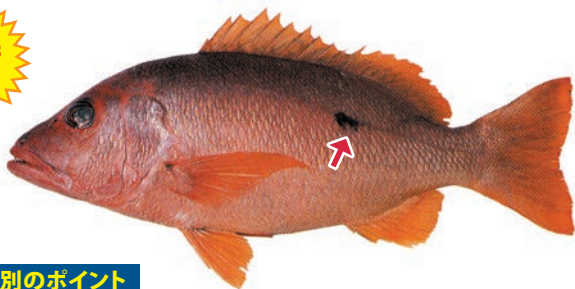
毒性 シガテラ毒

取扱い **販売自粛**

その他 未成魚は側線上部に2つの淡色斑点があるので、「フタツボシドクギョ」と呼ばれる。

イッテンフエダイ〔フエダイ科〕 別名:ヤマトビー

札幌
入荷



鑑別のポイント

- ①側線上に黒点(→)
- ②口腔内上面の歯帯は三日月状 [次頁で解説](#)
- ③若魚の鰭は黄色

学名 *Lutjanus monostigma*

英名 Onespotted snapper

体長 60cm

分布 南琉球列島～インド洋、西太平洋域

毒性 シガテラ毒

取扱い **販売自粛**

その他 沖縄では、体に黒斑があるフエダイはシガテラ毒の恐れがあるので敬遠する人が多い。実際、本種による食中毒が南西諸島で多発している。クロホシフエダイと類似している。

2001年(平成13年)11月6日、2003年(平成14年)6月1日、2007年(平成19年)1月25日札幌市中央卸売市場に入荷～廃棄。

— 類似の食用魚 —

クロホシフエダイ



体 長 50cm

分 布 南日本～インド洋

クロホシフエダイで、赤いタイプのは、イッテンフエダイと区別するのは難しい。ただし、クロホシフエダイの口腔内上面の歯帯はT字状なので、ここで区別できる。



イッテンフエダイの口の中



イッテン
フエダイ
の歯帯



クロホシ
フエダイ
の歯帯

イトヒキフエダイ〔フエダイ科〕 別名:イヌバー



鑑別のポイント

- ①頭が丸い
- ②顔に黒点
- ③幼魚は背鰭軟条(→)が糸状に伸長。成魚は短い

学名 *Symphorus nematophorus*

英名 Chinamanfish

体長 1m

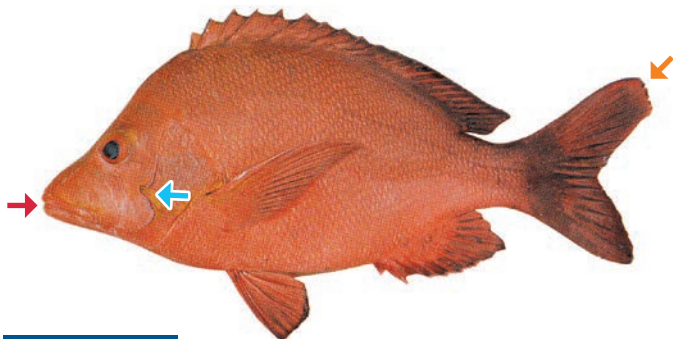
分布 琉球列島～西部太平洋域

毒性 シガテラ毒

取扱い 販売自粛

その他 体重40kgにもなる大型魚。幼魚時には背鰭の軟条が糸状に伸びるため、この名前がついた。沖縄で中毒例がある。

ヒメフエダイ〔フエダイ科〕 別名:ミミジャー



鑑別のポイント

- ① 吻が突出(→) 上顎に犬歯あり
- ② 前鰓蓋骨(ぜんさいがいこつ)に明瞭な欠刻(↔)
- ③ 尾鰭上葉先端が丸い(→)

学名 *Lutjanus gibbus*

英名 Red snapper

体長 50cm

分布 鹿児島、琉球列島～東南アジア、インド洋、紅海、南アフリカ、メラネシア

毒性 シガテラ毒

取扱い **販売自粛**

その他 体高が高く、上記のようなポイントを備えた魚は他にいないので鑑別しやすい。南太平洋で本種による食中毒が発生している。

アオチビキ〔フェダイ科〕 別名:オーマチ

札幌
入荷



鑑別のポイント

- ①体色は灰青色
- ②鼻孔のすぐ下に溝 (→)
- ③背鰭に4個ほどの黒斑

学名 *Aprion virescens*

英名 Blue-snapper

体長 50cm

分布 南日本、インド洋、太平洋域

毒性 シガテラ毒

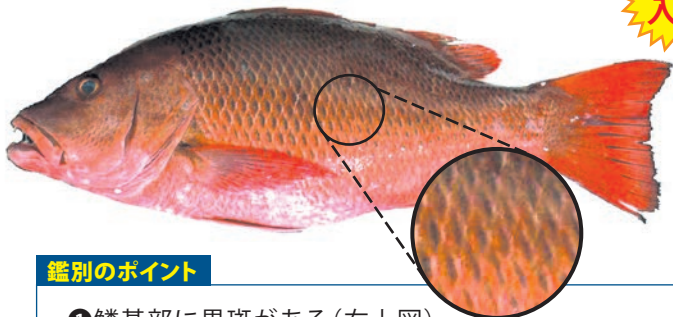
取扱い **販売自粛**

その他 特徴のある魚なので、判別しやすい。インド太平洋域で食中毒が発生している。

2002年(平成14年)10月11日、2013年(平成25年)11月30日、2018年(平成30年)6月29日札幌市中央卸売市場に入荷～廃棄。

ゴマフエダイ〔フエダイ科〕

別名:ゴマタルミ、カースビ

札幌
入荷**鑑別のポイント**

- ① 鱗基部に黒斑がある(右上図)
- ② 側線上の鱗列後方は斜め上に向かう
- ③ 体高はやや低い

学名 *Lutjanus argentimaculatus***英名** Silver snapper**体長** 60cm**分布** 南日本～東南アジア、インド洋**毒性** シガテラ毒**取扱い** 販売自粛**その他** 成魚では90cmにも達するが、老成したものは中毒を起こすといわれている。沖縄で食中毒事例あり。
2005年(平成17年)4月19日、2007年(平成19年)9月14日札幌市中央卸売市場に入荷～廃棄。

ムネアカクチビ〔フェフキダイ科〕

別名:クチナジ、
チムグチャー

札幌
入荷



鑑別のポイント

- ① 吻は突出する(→)
- ② 胸鰭基部に赤色斑(→)
- ③ 頭部背縁は眼の前でわずかに隆起する(→)

学名 *Lethrinus xanthochilus*

英名 Yellowlip emperor

体長 70cm

分布 琉球諸島以南、インド洋、西太平洋

毒性 シガテラ毒

取扱い **販売自粛**

その他 類似のホオアカクチビ(食)は主鰓蓋骨後縁に赤色斑がある。

2004年(平成16年)7月30日札幌市中央卸売市場に入荷～廃棄。

バラハタ〔ハタ科〕 別名:アズキガンモ、ナガジューミーバイ

オジロバラハタを含む

札幌
入荷



鑑別のポイント

- ① 尾鰭が深く湾入
- ② 背鰭、尻鰭、尾鰭後縁は黄色

学名 *Variola louti*

英名 Coral cod

体長 60cm

分布 南日本～インド洋

毒性 シガテラ毒

取扱い 販売自粛

その他 琉球列島各地で食中毒が多く発生している。地色は赤いものから黒っぽいものまで変化が大きい。尾鰭縁部が白いオジロバラハタも、同様にシガテラ毒魚である。

2012年(平成24年)2月23日、札幌市中央卸売市場に入荷～荷主に返却。この他、過去に数回入荷がある。

マダラハタ [ハタ科] 別名:イワハタ、ユダヤミーバイ

札幌
入荷



鑑別のポイント

- ① 背中側に茶褐色の不規則なまだら模様
- ② 体全体に細かい褐色点が密在
- ③ 尾鰭付け根背部に黒班(→)
- ④ 鰓蓋後縁は平坦 [次頁で解説](#)

学名 *Epinephelus microdon*

英名 Black rockcod

体長 50cm

分布 南日本～インド洋

毒性 シガテラ毒

取扱い **販売自粛**

その他 沖縄、南太平洋で、食中毒が発生している。毒をもつ個体が多く、小さな個体でも中毒されると言われている。ヤイトハタが類似している。

2008年(平成20年)4月15日札幌市中央卸売市場仲卸売場に入荷～荷主に返却。

— 類似の食用魚 —

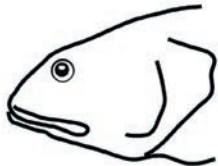
ヤイトハタ



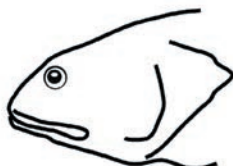
体 長 60cm

分 布 琉球列島～インド洋

ヤイトハタの斑点は黒色。密でない。
ヤイトハタの鰓蓋後縁はとがっているが、
マダラハタ、アカマダラハタの鰓蓋後縁は
平坦に近く、とがっていない。



アカマダラハタ、
マダラハタの鰓蓋



ヤイトハタの鰓蓋

アカマダラハタ〔ハタ科〕 別名:ヨダレハタ、ヨッパライ

札幌
入荷



鑑別のポイント

- ① 後頭部がくぼんでいる(→)
- ② 鰓蓋後縁は平坦 前頁で解説
- ③ マダラハタに似る。ただし、体色は赤みを帯びる
体側全体に細かい斑点が密在
- ④ 尾鰭付け根背部に黒斑がある(→)が、鮮明でない

学名 *Epinephelus fuscoguttatus*

英名 Carpet cod

体長 50cm

分布 琉球列島～インド洋

毒性 シガテラ毒

取扱い **販売自粛**

その他 マダラハタより毒性は強いと言われる。
2003年(平成15年)4月5日札幌市中央卸売市場に
入荷～廃棄。

オオアオノメアラ〔ハタ科〕別名:オオアオノメハタ、
アカジン、ヤーラアカユ**鑑別のポイント**

- ① 青い斑点の周りに黒い縁取りがある
- ② 歯が鋭い
- ③ 尾鰭が截形で後縁が白い

学名 *Plectropomus truncates*

英名 Squaretail coral grouper

体長 1m

分布 琉球列島～西部太平洋

毒性 シガテラ毒

取扱い **販売自粛**

その他 全国の検疫所で輸入禁止にしている。沖縄でも食中毒事例あり(1990年(平成2年).7.20)。スジアラ(食)が似ているが、判別しづらい。鑑定は慎重に行うこと。

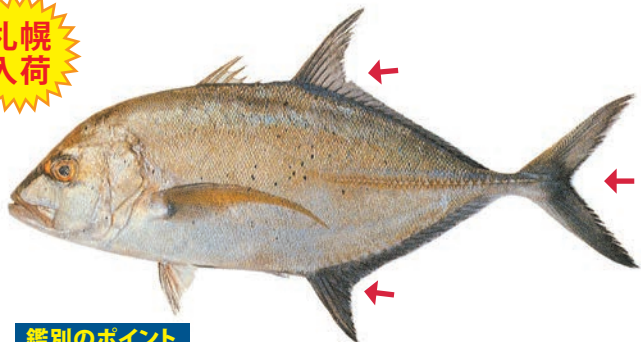
スジアラ

斑点が小さい。
尾鰭が截形またはわずかに湾入。

カスミアジ [アジ科]

別名: ガーラ

札幌
入荷



鑑別のポイント

- ① 第2背鰭、尻鰭、尾鰭(→)が青い
- ② 体表に小黑点散在

学名 *Caranx melampygus*

英名 Blue finned trevally

体長 50cm

分布 伊豆諸島、琉球列島～インド洋、太平洋域

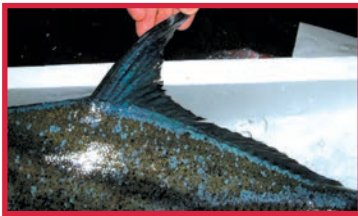
毒性 シガテラ毒

取扱い **販売自粛**

その他 ロウニンアジ(食)、オニヒラアジ(食)等似た仲間が多い。しかし、鰭が青いのはカスミアジだけ。
沖縄で食中毒事例あり(1999年(平成11年).8.31)。
2002年(平成14年)8月24日札幌市中央卸売市場に入荷～荷主に返却。



◁カスミアジ頭部には
斑点がある。



◁カスミアジ背鰭は青い。

— 類似の食用魚 —

ロウニンアジ



体長 1m以上

分布 南日本、
インド～太平洋域

鰭は黒っぽく、稜鱗は
黒くない。

オニヒラアジ



体長 50cm

分布 琉球列島、
インド～太平洋域

全体に銀白色。

ギンガメアジ [アジ科]

札幌
入荷

鑑別のポイント

- ① 鰓蓋上端に小黑点(→)
- ② 脂脰が発達(→)
- ③ 成魚の第2背鰭先端(→)は白い
- ④ 稜鱗(→)が黒い

学名 *Caranx sexfasciatus*

英名 Big-eye kingfish

体長 50cm

分布 南日本～インド洋、太平洋域

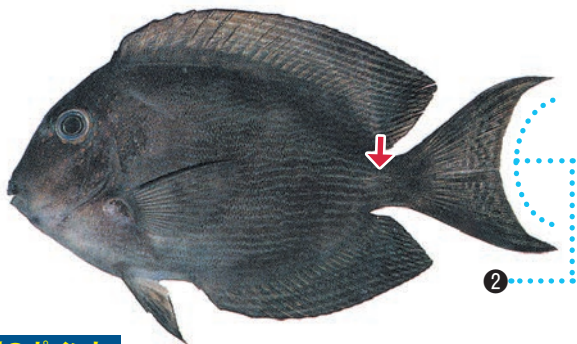
毒性 シガテラ毒

取扱い **販売自粛**

その他 小型魚は、関西ではメッキと呼ばれ、汽水域に多く、時に川を遡り食用にされている。海中では群れをなして泳いでおり、鰓蓋上端の黒点が目立つので、判別しやすい。

札幌市中央卸売市場への入荷頻度は高い。

サザナミハギ〔ニザダイ科〕 別名:トカジャー



鑑別のポイント

- ① 体側表面の縦縞が波打っている
- ② 尾柄部 (→) に1刺がある。尾鰭湾入
- ③ 歯の先端が鋸歯状

学名 *Ctenochaetus striatus*

英名 Bristletooth surgeonfish

体長 20cm

分布 南日本～インド洋、太平洋域

毒性 シガテラ毒

取扱い **販売自粛**

その他 代表的シガテラ毒魚。南太平洋タヒチでは、本種による食中毒が多発している。

テングハギ〔ニザダイ科〕 別名:ブタハゲ、ツノハゲ

札幌
入荷



鑑別のポイント

- ①眼頭部に角(→)
- ②尾柄部の骨質板は2個(→)で、成魚では青く縁取り
- ③尾鰭の両端(→)が糸状に伸びる

学名 *Naso Unicornis*

英名 Brown Unicornfish

体長 50cm

分布 南日本～インド洋、太平洋域

毒性 シガテラ毒

取扱い **販売自粛**

その他 熱帯海域のものはシガテラ中毒を起こすといわれている。

2006年(平成18年)9月29日札幌市中央卸売市場に入荷～廃棄。

2 パリトキシム毒

ソウシハギ〔カワハギ科〕

別名: センスルー

札幌
入荷



鑑別のポイント

- ① 体側に青い波状紋
- ② 尾鰭(↔)は頭長(↔)より長い

学名 *Aluterus scriptus*

英名 Longtail filefish

体長 50cm

分布 相模湾以南、全世界の熱帯海域

毒性 パリトキシム毒。消化管、肝臓に毒があり、筋肉は無毒。症状は、筋肉痛、呼吸困難、痙攣等

取扱い **販売自粛**

その他 鑑別は容易である。札幌市中央卸売市場では、ウマヅラハギ、ウスバハギ等に混ざって入荷してくることが多い。大型ハギ類が入荷した時は、1尾ずつチェックすること。

2005年(平成17年) 9月26日、10月25日札幌市中央卸売市場に入荷～廃棄。

札幌市中央卸売市場にて販売可能であるが、販売者に注意喚起を要請する魚

平成20年4月1日より本市場にて取扱い開始

アブラボウス〔ギンダラ科〕



鑑別のポイント

- ① 尾鰭後縁わずかに湾入
- ② 若魚は白いまだら模様がある
老成魚もよく見るとまだら模様が見える

学名 *Elilepis zonifer*

英名 Skilfish

体長 1.5m

分布 北日本の太平洋、ベーリング海、中部カリフォルニア

— 注意事項 —

販売者は、「筋肉中に多量の脂質を含み、大量に食べると下痢するため、食べ過ぎないように注意すること。また、肝臓はビタミンAを過剰に含むため、食べないこと。」という旨の注意喚起を行う。

— トラフグ、マフグ、カラスの区別 —

棘がある



尻びれは白

トラフグ

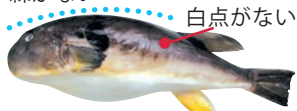
棘がある



尻びれは黒

カラス

棘がない



白点がない

マフグ(成魚型)

棘がない

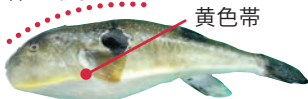


白点がある

マフグ(幼魚型)

— 交雑種の取扱いについて —

棘がある

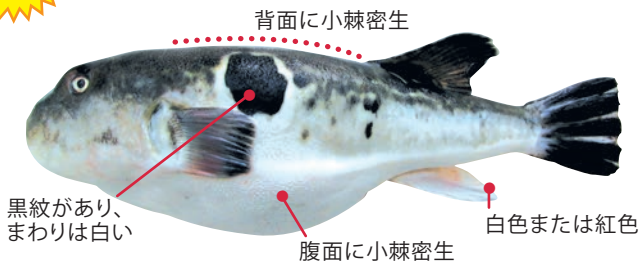
体側中央に
黄色帯

交雑種(トラフグ×マフグ)

札幌市中央卸売市場には年に数回、トラフグとマフグの交雑種が入荷することがあり、可食部位はマフグと同様(筋肉と精巣)として販売するよう指導を行っている。

札幌
入荷

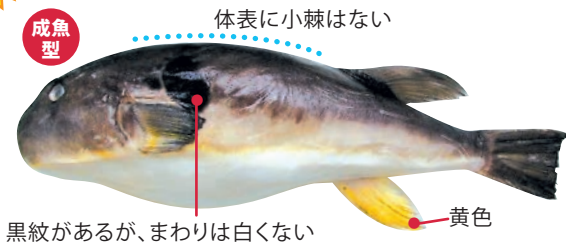
トラフグ



体 長 70 c m (大型種) 可食部位 筋肉・皮・精巣

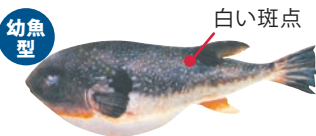
札幌
入荷

マフグ



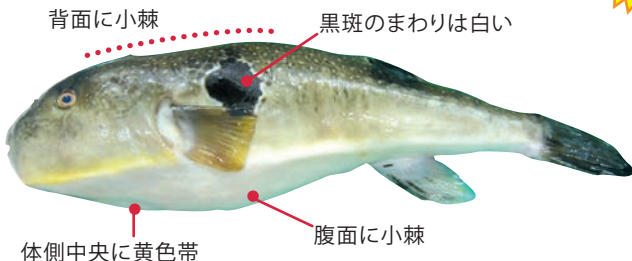
体 長 50 c m (中型種)

可食部位 筋肉・精巣



トラフグ×マフグ(交雑種)

札幌
入荷

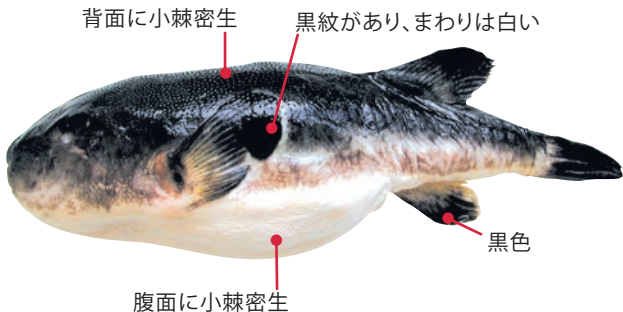


取扱い:マフグとして販売

可食部位 筋肉・精巢

カラス

札幌
入荷

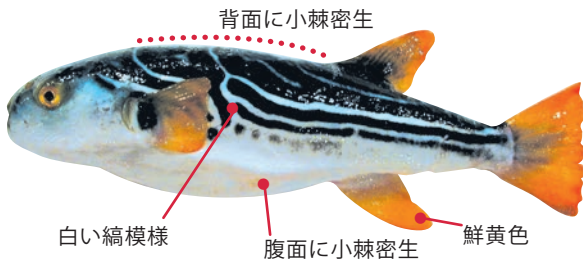


体長 50 c m (中型種)

可食部位 筋肉・皮・精巢

札幌
入荷

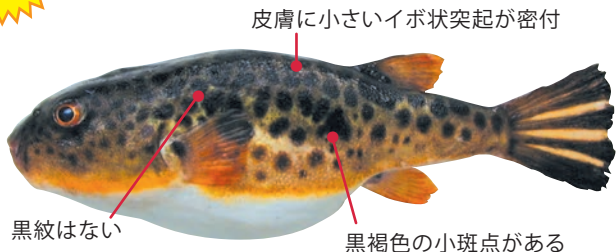
シマフグ



体	長	60 c m (大型種)	可食部位	筋肉・皮・精巣
---	---	--------------	------	---------

札幌
入荷

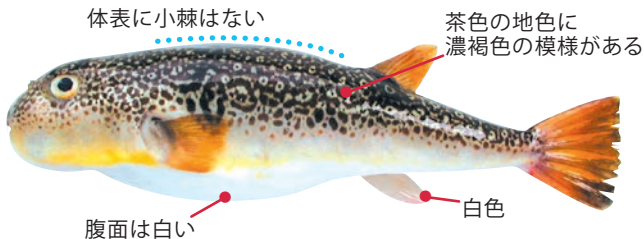
ヒガンフグ



体	長	40 c m (中型種)	可食部位	筋肉*
---	---	--------------	------	-----

*ただし、三陸沿岸(岩手県越喜来湾及び釜石湾並びに宮城県雄勝湾)で漁獲されたものを除く

ショウサイフグ

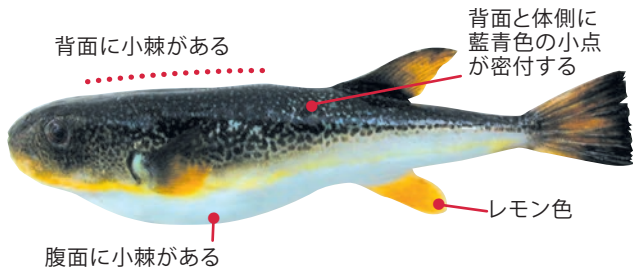


体長 35 c m (中型種) **可食部位** 筋肉・精巣

* 海水温の上昇等の影響により、ゴマフグ(下)等との交雑種の増加が確認されているので注意が必要。

ゴマフグ

札幌
入荷



体長 40 c m (中型種) **可食部位** 筋肉・精巣

札幌
入荷

ナシフグ

体表に小棘はない



黒紋があり、まわりは
白く菊花状に縁取られる

下方は白色

体 長 30 c m (中型種) 可食部位 筋肉*1・精巣*2

*1 有明海、橘湾、香川県および岡山県の瀬戸内海域で漁獲されたものに限る

*2 有明海、橘湾で漁獲され、長崎県で定める要領に基づき処理されたものに限る

クサフグ

背面に小棘密生

暗緑色地に小白斑

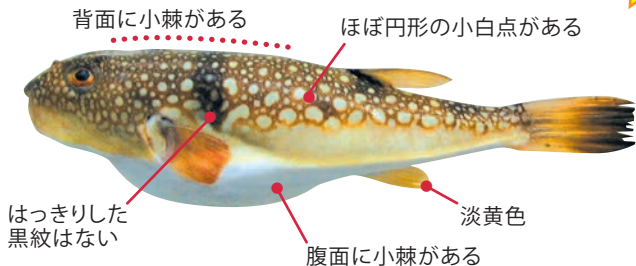


腹面に小棘密生

体 長 15 c m (小型種) 可食部位 筋肉

札幌
入荷

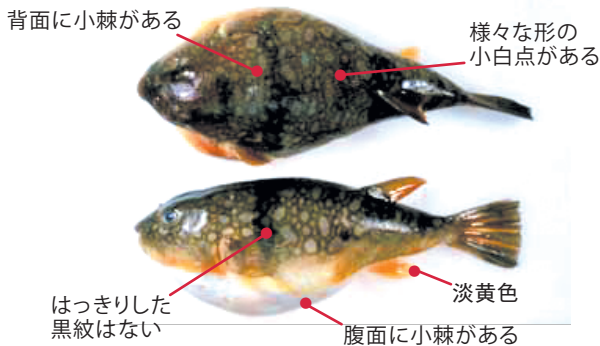
コモンフグ



体長 25 c m (小型種) **可食部位** 筋肉*

*三陸沿岸(岩手県越喜来湾、釜石湾および宮城県雄勝湾)で漁獲されたものを除く

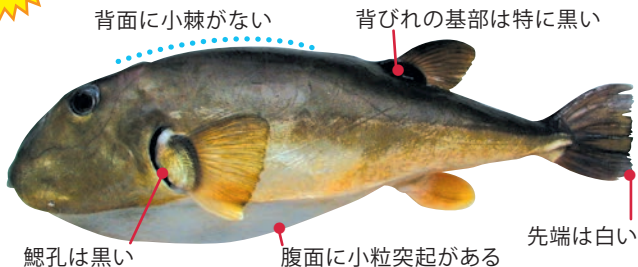
コモンダマシ



体長 30 c m (小型種) **食用不可**

札幌
入荷

カナフグ



体 長 100 c m (大型種) 可食部位 筋肉・皮・精巣

札幌
入荷

シロサバフグ



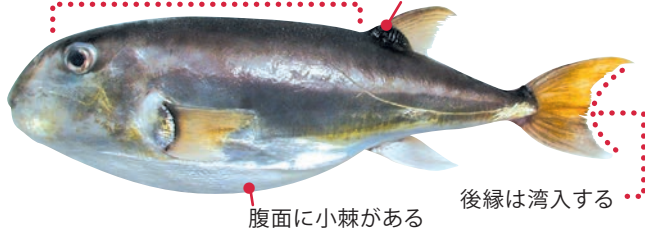
体 長 35 c m (中型種) 可食部位 筋肉・皮・精巣

ドクサバフグ

※他のサバフグ類と酷似

小棘は背びれまで達している

背びれ基部は特に黒い



体長 50 cm (中型種) **食用不可**

— サバフグ類の区別 —

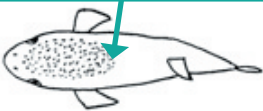


▲シロサバフグ

背面の小棘が背びれに達していない。

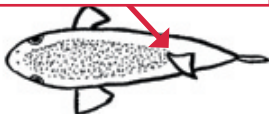


▲クロサバフグ



▲ドクサバフグ (食用不可)

背面の小棘が背びれの付け根までである。



札幌
入荷

ホシフグ



全身に白色点と小棘がある

体 長 40 c m (中型種) **食用不可**

主なフグの特徴

種類	背面	腹面	黒紋	尻びれ	尾びれ	体長
トラフグ	黒い斑点が重なり合って黒褐色になる。小棘(とげ)がある。	小棘(とげ)がある。	胸鰭の後方には白く縁取られた大きな黒い斑点がある。	白色か紅色		80cm以上 (大型種)
マフグ (成魚)	小さな黒い斑点が数多く密に分布し、黒褐色にみえる。小棘はなく、なめらか。	腹面は白い。小棘はなく、なめらか。	胸鰭のすぐ後ろに大きな黒い斑紋があるが、白い縁取りはない。	黄色	一様に暗褐色	50cm (中型種)
マフグ (幼魚)	幼魚と成魚で背面の様子が異なり白い斑点がある。コモンフグに似る。小棘はなく、なめらか。	小棘はなく、なめらか。	胸鰭のすぐ後ろに大きな黒い斑紋があるが、白い縁取りはない。	黄色	一様に暗褐色	-
カラス	背面と側面の紋様はトラフグとよく似て、黒い斑点が重なり合い黒褐色になる。小棘がある。	腹面は白い。小棘がある。	胸鰭の後方の黒い斑紋はトラフグに比べ、全体的に紋様が不鮮明である。	黒色 ※トラフグは白色		50cm (中型種)
シマフグ	背面と側面は青黒色の地色に背面から体側後方に向かって白い縞が走る。小棘が密生している。	小棘が密生している。		鮮やかな黄色	鮮やかな黄色	60cm以上 (大型種)
ゴマフグ	背面と体側面に藍青色の小点がごま粒のように密在する。小棘がある。	小棘がある。		黄色 ※胸鰭も黄色	黒色 ※背鰭も黒色	40cm (中型種)
ヒガンフグ	背面と側面は赤味をおびた褐色で、黒褐色の小斑点が多く散在。小棘はない。皮にいぼ状の小さな突起が密布する。	腹面は白い。小棘はない。	黒斑はない。			35cm (中型種)
クサフグ	背面は深緑色で、側面から背面白く小さな斑点が散在する。小棘がある。	腹面は白い。小棘がある。	胸鰭のすぐ後ろにやや大きな黒い斑紋があるが、白い縁取りはない。			15cm以下 (小型種)
ショウサイフグ	茶色の地色に濃褐色の模様がある。小棘はない。	腹面は白い。小棘はない。	黒斑はない。	白色		35cm (中型種)
ナシフグ	背面の斑紋は茶褐色に縁取られた白色で、互いが接するよう密に分布する。小棘はなく平滑である。	小棘はなく平滑である。	胸鰭後方上部に黒紋があり、その周辺が白く花のように形どられている。	白色 ※背鰭と胸鰭は黄色	黄色で下縁は白い	25cm (小型種)
コモンフグ	背面は褐色で、円形をした小さな斑点(小紋)が不規則に散在する。小棘がある。	腹面は白い。小棘がある。	はっきりした黒紋はない。	淡黄色		25cm以下 (小型種)
サンサイフグ	幼魚と成魚で模様が大きく異なる。小棘がある。	小棘がある。	胸鰭後方上部に不定形の黒紋がある。	黒色か暗黄色		40cm (中型種)

種類	背面	腹面	黒紋	尻びれ	尾びれ	体長
アカメフグ	背面と側面は桃色または赤褐色の地に小斑点が散在する。小棘(とげ)はなく、平滑である。	小棘(とげ)はなく、平滑である。	黒斑はない。	赤褐色	赤褐色	25cm (小型種)
メフグ	背面は茶褐色。小棘がある。	小棘がある。	胸鰭と背鰭の基部に黒い班紋があり、白い縁取りがあるが不明瞭な場合あり。	黄色		45cm (中型種)
カナフグ	小棘はない。	腹面に小粒状突起あり。		※背鰭の基部が黒く、鰓孔も黒い。		1mに達する大型種
シロサバフグ	小棘があり、背鰭まで達しない。(この点がドクサバフグと異なる)	小棘がある。			下方は白色か灰色	35cm程度 (中型種)
クロサバフグ	小棘があり、背鰭まで達しない。(この点がドクサバフグと異なる)	小棘がある。			中央部は突出する。(この点がシロサバフグと異なる)	40cm程度 (中型種)
ヨリトフグ	体は円滑で小棘(とげ)はない。	体は円滑で小棘(とげ)はない。				40cm (中型種)
ハコフグ	体甲に突起はなく、体の横断面はほぼ四角形。					40cm (中型種)
ハリセンボン	体の全体に強くて可動の長い棘が密布する。	体の全体に強くて可動の長い棘が密布する。				30cm以下 (小型種)

食用不可のフグ

種類	背面	腹面	黒紋	特徴
コモンダマシ	小棘があり、その基部は白く顕著な微小白点になっている。	小棘がある。	はっきりした黒紋はない。	コモンフグに似るが、体側小白点の形が異なることで区別できる。尾鰭は淡黄色。27cm(小型種)
ドクサバフグ	背中の小棘は背鰭まで達し、背鰭基部は特に黒い。	小棘がある。		尾鰭中央部は深く切れ込んだものが多い。50cm以上に達する中型種だが、40cm以下のものが多い。
センニンフグ	背面に小黑点があり、体側に銀白色のバンドがある。			鰓孔は黒い。1mに達する大型種
ムシフグ	背面、体側の虫がはった跡のような模様は個体によって異なる。小棘がある。	小棘がある。		シマフグとナシフグの天然交雑種フグがムシフグと混同されている。20cm(小型種)
サザナミフグ	体側に白い小円紋あり。小棘がある。	波状帯があるが、成魚は消失し、いくらか白くなる。小棘がある。		50cm(中型種)
ホシフグ	小白点と小棘がある。	小白点と小棘がある。		40cm(中型種)
クマサカフグ	小棘はない。	小棘がまばらにある。		胸鰭の下方1/3は白い。尾鰭の下葉は上葉より長い。50cm(中型種)

自然毒のリスクプロファイル(厚生労働省HP)、
日本近海産フグ類の鑑別と毒性(厚生省生活衛生局肉衛生課編)による。

— 謝 辞 —

ゴマシズ、ホシゴマシズの図版は、海洋水産資源開発センター(現 国立研究開発法人 水産研究・教育機構)の許可を得て「パタゴニア海域の重要水族」から複写しました。その他の図版は、東海大学出版会の許可を得て「日本産魚類大図鑑」(1984年)から複写しました。

東京都中央卸売市場に関する知見およびフグの交雑種に関する知見は、東京都市場衛生検査所が発行した「有毒魚介類ハンドブック」、「フグの交雑種及び変異種検索図鑑」および「市場で働く方のための有毒魚介類の見分け方」を参考にしました。なお、「市場で働く方のための有毒魚介類の見分け方」については、東京都市場衛生検査所の公式ホームページ (URL:<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/itiba/oshirase/dokugyopamph.html>) で公開されております。

沖縄の有毒魚の取り扱いについて、沖縄県保健医療部衛生薬務課に教えていただきました。

フグについては、福岡市保健福祉局生活衛生部食品衛生検査所ホームページより画像を複写させていただきました。

皆様の御好意、御指導に深く感謝いたします。

有毒魚ハンドブック

平成15.3.31 初版発行
平成15.5.20 改訂版発行
平成19.7.26 改訂版発行
平成22.3.1 新版発行
平成25.6.1 新版発行
平成31.3.31 新版発行

札幌市保健福祉局保健所
食の安全推進課市場検査係
(広域食品監視センター)

〒060-0012

札幌市中央区北12条西20丁目2-2

SAPP
RO

